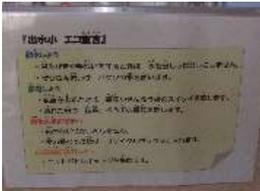
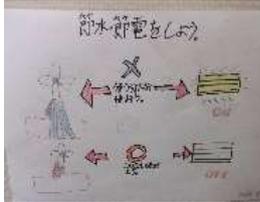


平成30年度 学校版環境ISOへの取組 概要報告

管内	市町村	学校名
熊本市	熊本市	出水小学校

1 取組の概要

項目	活動の様子(写真)	取組の実際
宣言		<p>児童集会で、エコ美化委員会の児童が中心となって「出水小エコ宣言」を行った。</p> <p>〈宣言項目〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 節水しよう ② 節電しよう ③ 紙を大事に使おう ④ エコ運動に協力しよう
行動	    	<ul style="list-style-type: none"> ・「エコ宣言」を各学級に掲示し、取組への意識化を図った。 ・「エコ係」や「電気係」などの係活動として取り組む学級もあった。 ・エコ美化委員会で「節電・節水月間」を設定し、ポスターや放送で、節電、節水の取組を呼び掛けた。 ・各教室に紙リサイクルボックスを設置し、使い終わった紙をいつでも入れられるようにした。 ・学級活動の掲示物作りや授業時のメモなどにポスターの裏や学習プリントの裏などを活用した。 ・給食委員会が「牛乳飲み残しゼロ」「残菜ゼロ」を呼び掛けた。飲み残しがないかどうか調査し、目標達成できたクラスを表彰するなどした。 ・夏休み前に、全校にペットボトルキャップ回収への協力を呼び掛けておき、休み明けに回収ボックスを設置し、回収活動を行った。エコ美化委員会で、集まったキャップの重量測定を行った後、イオングループの「ペットボトルキャップを集めて世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」に届けた。給食時間の校内放送で、「ペットボトルがワクチンに変わるまでの流れ」や「ワクチンがなぜ必要なのか」について、繰り返し説明を行った。
記録	 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を出る時に、電灯や扇風機、エアコンのスイッチが消えているかどうかを係の児童が確認し、徹底した。積極的に電気や扇風機のスイッチを消そうとする児童が増えた。しかし、晴れた日に階段や廊下などの電気がついたままになっていることもあり、「スイッチ切り忘れゼロ」の目標については、十分に達成したとは言えない状況である。

		<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いをするとき、せっけんをつけて洗っている間は水を止めて、節水を心がけている児童が多く見られた。 ・学校全体の水道使用量が、昨年度の同月使用量より各月 10 m³以上下回った。(平成 30 年 4 月～12 月まで) ・紙のリサイクルボックスに集まった紙は、エコ美化委員や学級担任が束ねて、熊本市に紙ごみとして回収してもらった。 ・ペットボトルキャップ約 77.5 キログラム (約 35200 個) 集まった。回収活動の結果と感謝状を頂いたことを児童集会及び校内掲示で全校に知らせた。「40000 個集める」という数値目標は達成できなかったが、昨年度より回収量が増え、エコ美化委員会の児童は成果を実感していた。
見直し		<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルキャップ回収については、今年度は数値目標に到達しなかったが、来年度も同程度の数値目標を設定したい。回収機会を増やしたり、更に呼び掛けを行ったりするなどして目標達成を目指して取組をしていく。

2 成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・エコ美化委員会を中心に「エコ宣言」を行い、年間を通して呼び掛けや取組ができた。それを受けて、各学級でも節水・節電・リサイクルなどの実践がされており、児童の意識付けができた。 ・学校全体の今年度の水道使用量が昨年度より少なかった。(給食室、体育館、プールを除く) ・ペットボトルキャップ集めは、数年前から継続して行っているため、家庭にも周知されており、短期間でたくさんの協力が得られた。毎年、回収したペットボトルキャップがどのようにリサイクルされて役立つのかを説明しているため、年々、協力しようという意識が高まっている。 ・緑化委員会や緑化ボランティアの児童による花苗植えや、早朝ボランティアによる落ち葉かきなどが積極的に行われていた。校庭の緑化、美化など身近な環境を良くしようという意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工などの学習の後、まだ使える用紙がごみ箱に捨てられていたり、リサイクルボックスに入れられていることがあった。学習前に無駄のない使い方についての指導を行ったり、使う量を制限したりするなどして、紙の無駄使いを減らすことが必要である。 ・職員も、印刷の際の裏紙の使用や、会議等の資料をデータで共有するなど、紙の使用量を抑える取組を行っているが、印刷時のミスによる紙使用の無駄も見られる。印刷ミスを減らすためのチェックを行うことや裏紙使用を更に増やしていくことなど、さらに、紙の使用量を減らすための取組について、職員の意識を高めていく必要がある。